

主教按手式

あまねく教会の祈禱と立証を求めするため、主教会が内各教会に、また当該教区教あるいは管理主教がその教区内各教会に、あらかじめ公告した日に、早禱が終わってから、司式主教は聖餐式を行ない、次の特禱を用いる。

特禱

全能の神よ、主は御子イエス・キリストをもつて、聖なる使徒たちにもろもろの良き賜物をさずけ、主の群れを養うことを命じたまえり。願わくは主の民を牧するすべての主教、忠実に御言葉を宣べ、正しく公会を治め、信徒ら喜びてこれに従い、ともに限りなき栄光の冠を受くることを得させたまえ。主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

次に主教の一人は福音書を、歌いまたは朗読する。

使徒書 テモ前三章一―七

または 使二〇章一七―三五

福音書 ヨハ 二一章一五―一七

または ヨハ二〇章一九―二三

または マタ二八章一八―二〇

一部を着けた被選主教を伴い次のように推薦する。

師父よ、この人を主教（エピスコポ）の職に任ぜんことを願う

司式主教は所定の証明書を朗読させ、また被選主教に次の誓約をさせる。

神の御名によりて、アーメン。日本聖公会——教区の主教に選挙せられたる我——必ず日本聖公会の教理・訓戒・拝式を守ることを誓う。神よ、願わくはイエス・キリストによりて助けたまわんことを

次に司式主教は言う。

兄弟よ、聖書にしるせるごとく、我らの救い主キリストは十二使徒を選び、これをつかわす前に、よもすがら祈りたまえり。またアンテオケにありし弟子たちも、パウロとバルナバに手をおきてつかわす前に、断食と祈禱をなせり。ゆえに我

らもこの人を立て、聖霊の召したもう所におくらんとするに当たり、救い主キリストと使徒たちの模範にならない、全能の神に祈るべし

ここで嘆願を歌いまたは唱える。主教・司祭・執事のための願いの次に司式主教は立って左の願いを加える。

司式者

願わくはこの兄弟を祝し、御恵みをくだして、正しくその務めを尽くし主の公会の徳を建て、御名の誉れと栄光をあらわさせたまわんことを

会衆

主よ、ききたまえ

嘆願の「キリストよ、我らの願いをききたまえ」につづいて司式主教は次の祈りを用いる。

もろもろの良きものを与えたもう全能の神よ、主は聖霊をもって公会のうちに聖職を立て、その位を分かちたまえり。いま主教の職に召されたるこのしもべを見そなわしたまわんことをこいねがい奉る。願わくは主の道の真理をもって彼を満たし、清き生涯をもって彼を装い、忠実に主に仕え、その教えと行ないをもって御名の栄光をあらわし、聖公会の徳を建て、良くこれを治めしめたまえ。父と聖霊とともに世々統べ治めたもう救い主イエス・キリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで会衆は座につき、司式主教は座して被選主教に問う。

兄弟よ、聖書においても、いにしえの公会のおきてにおいても、軽々しく人に手をおくことを戒め、キリストが尊き血をもって買ったまいし公会を治むる権威をみだりに与うることを禁じたり。ゆえに今この務めをなんじにゆだねんとするに当たり、次の箇条をもってなんじに問わん。これなんじが神の公会において、いかに行なわんとするかを会衆とともに試み、かつ証しせんがためなり

司式者

なんじこの職に召さるるは主イエス・キリストの御心にかない、また日本聖公会の律法にかなえりと思うか
しか思う

答

司式者

なんじ聖書はイエス・キリストによりて限りなき救いをうるに必要な教理をことごとく載せたりと信ずるか。また聖書をもってなんじにゆだねられたる人々を教え、かつ聖書をもって証明し得ざることは何をも限りなく救いに必要として教えざることを決心したるか
我かく信じ、また神の恵みによりてかくなさんと決心せり

答

司式者

さればなんじねんごろに聖書をきわめ、これを悟らんことを神に祈り、その正しき教えをもつて人をさとし、反対者を服せしむることを努むるか

答 われ神の助けによりてかくなさん

司式者

なんじ神の御言葉にそむく異なる教えを公会より払い去り、また公けにも私にみ人々に勧めてこの事をなさしむるか

答 われ神の助けによりてかくなさん

司式者

なんじ神に逆ろう心と世の欲とを捨て、神をうやまい、正義を行ない、身を修めて人々の模範となり、敵する者をしてなんじをそしる余地なからしめんとするか

答 われ神の助けによりてこれをなさん

司式者

なんじ力を尽くしてすべての人の間に平和と愛を保たしめ、また神の言葉と公会のおきてに従いて人々を治めんとするか

答 われ神の助けによりてこれを努む

司式者

なんじ慎みて、人に手をおきて聖職に任じ、これをつかわすことを努むるか

答 われ神の助けによりてこれを努む

司式者

なんじキリストのために、貧しき者・寄るべなき者を柔和にあしろうことを努むるか

答 われ神の助けによりてこれを努む

司式主教は立つて言う。「アーメン」は司式主教だけが言う。

願わくはこの志をなんじに与えたまいし天の父・全能の神、これらの事を成し遂ぐる力を与え、なんじの心に始めたまいしみわざを全うし、終わりの日に責むべきところなからしめたまわんことを、主イエスⅡキリストによりて願う。アーメン

司式主教はまた言う。

愛する兄弟よ、いま公会にて主教の職に召されし主のしもべを受け、天よりの祝福を与えたまわんことを全能の神に祈るべし

一同ひざまずいて黙祷する。

黙祷ののちに被選主教は正服の残部を着ける。

次に司式主教と会衆は、交互に左の聖歌の各節を一小節ずつ歌い
たは唱える。

聖霊を求むる歌

- 一 みたまよきだりて ながつくりましし
ころろにめぐみをあふれしめたまえ
 - 二 なのたまものあぶらをそそぎて
いのちのいずみをひらきのましめよ
 - 三 ころのくらきをてらしみちびきて
けがれもはじをもとりのぞきたまえ
 - 四 わがうちにやどりやすきをたもたせ
そとべよりおそうあたをふせぎてよ
 - 五 ちちみこみたまのみつのくらいなる
ひとりのみかみをさとらしめたまえ
 - 六 ちちみこのおくるみたまみちびけば
かみのみさかえをとこしえにうたわん
アーメン
- 主教 主なんじらとともにいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
主教 なんじら心を挙げよ
会衆 我ら心を主に挙げん
主教 主なる神に感謝し奉るべし
会衆 そは正当にしてなすべきことなり

司祭主教は次の言葉を歌いまたは唱える。

至聖なる父・とこしえにいます全能の神よ、いついずこにても主に感謝し奉るは
、正当にしてなすべき務めなり。主は大なるいつくしみによりて、ひとりの御子

イエス・キリストを与えて我らの贖いを成就し、天に昇りしのち使徒・預言者・伝道者・教師・牧師を送り、その働きによりて公会の徳を建てたまひしことを感謝し奉る。願わくは聖霊をもって今このしもべを満たし、つねに喜びて平和の福音をひろめ、またその權威を用いて人をほろぼさず、かえって人をたすけ、ついに主の家族をやしのう忠実なるしもべと認められ、限りなき喜びに入ることを得させたまえ。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう御子イエス・キリストによりてこいねい奉る。アーメン

ここで被選主教は、司式主教の前にひざまずき、会衆は立つ。司式主教は臨席主教とともに手をおき、司式主教は言う。「アーメン」は司式主教だけが言う。

父と子と聖霊の御名によりて我なんじに手をおく。なんじ神の公会にて主教の職位につき、その務めを行のうために聖霊を受けよ。アーメン

なんじこの按手によりて受けし神の恵みをますます盛んならしむることを努めよ。神の我らに賜える霊は臆する靈にあらず、力と愛と慎みの靈なり

次に司式主教は新主教に聖書を渡して言う。

なんじこれを読むことと、人を勧め教うることを努め、これにしるせることをよく考え、ひたすらこれに心を寄せてなんじの進歩をあらわすべし。なんじおのれを慎み、また教えに心して、常にこれらのことを努めよ。さらばなんじおのれを救い、またなんじに聞く者を救わん。なんじキリストの群れの牧者となりて、おおかみとなるなかれ。これを養いてこれを食らうなかれ。弱き者の助け、病をいやし、傷つける者をいたわり、捨てられし者をみちびき帰し、迷える者をたすね求むべし。なんじ人をあわれむにゆるやかに過ぎず、人を懲らすにあわれみを忘るるなかれ。さらば大牧者の現われたもうとき、その御手より朽ちざる栄光の冠を受けん。我らの主イエス・キリストによりて。アーメン

司式主教は聖餐式をつづける。新主教とともに聖餐を受ける。福音の前に次の祈りを用いる。

いづくしみ深き全能の父よ、願わくはこのしもべらに天の恵みをくだし、聖霊をもって彼をみだし、主の御言葉を宣べ伝え、よく忍び、よく教え、熱心に人を戒め、人を勧むることを得させたまえ。また言葉と行ない、愛と信仰、聖潔と節制をもって信徒の模範となり、走るべき道のりを走り、終わりの日に正しきさばき主より義の冠を受くることを得させたまえ。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン